実践編

DIGにチャレンジ

地震などの自然災害が発生した場合、私たちの地域はどうなり、私たちは何をしなければならないのか。

そのためのトレーニングとして、みんなで地図を囲み、ワイワイガヤガヤと簡単にできるのが、災害図上訓練DIG（ディグ）なのです。

DIGとは、Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字を取って命名されました。DIGという単語は「掘る」という意味を持つ英語の動詞でもあり、転じて、探求する、理解するといった意味をもっています。このことから、DIGという言葉には、「災害を理解する」「まちを探求する」「防災意識を掘り起こす」という意味も込められています。

災害図上訓練DIGは、誰もが行うことができ、誰もが参加できる簡単な訓練で、一言で言うと「大きな地図を参加者全員で囲み、自分たちが生活している地域で災害が発生した場合を想定し、その対応策をイメージトレーニングしてみよう」というものです。

1　準　備

人員構成	・進行役:全体の企画、進行、講評等 ・スタッフ:進行役を補助 ・プレイヤー:地図を囲み検討する参加者
当日までの準備	・テーマの決定 ・参加人員の見積もり ・会場の手配、参加呼びかけ ・地図、小道具の手配 ・配付資料の作成 ・スタッフの役割分担の確認
用意するもの	地図（住宅地図等）、地図の拡大コピー、透明シート、油性ペン（12色セット）、ベンジン、ティッシュペーパー、セロテープ、はさみ、カッター、ドットシール（大小、数色）、付箋（大小、数色）
当日の日程	・会場設営 ・受付 ・DIG実施 ・後片付け ・反省会

2　実　践

ステップ 0　まずはセッティング

プレイヤーの人数を1班10人程度に分けます。机に拡大コピーした地図を広げ、透明シートをほぼ全面にかぶせます。

ステップ 1　自分の住むまちの防災力を理解する。

ここでは、自然条件、まちの構造、人的・物的防災資源を地図に書き込みながら、自分の住むまちの災害に対する強さ・弱さについて確認します。付箋などを使い記入します。付箋は色分けすると便利です。

進行役が全体に呼びかけながら一つ一つ次の手順で作業を進めていきます。

ア　基本地図（自然条件）を把握する。

①現在の自然条件を確認する。（市街地の位置、山と平地の境界線、河川の位置など）

②昔の自然条件を可能な範囲で記載する。（今の宅地場所が昔はどうなっていたかなど）

イ　基本地図（まちの構造）を作成する。

鉄道、主要道路、路地、狭隘道路、公園、オープンスペース、水路、用水、小河川、延焼を防ぐと思われる地域を書き込む。

ウ　地域の「人的・物的防災資源」を記載する。

プラスにもマイナスにも働く施設等を付箋等により書き込む。

①官公署、医療機関等

②災害時「役に立つ」施設、事業者

避難地、避難所、防災倉庫、資機材を保有する事業者、防火水利、食料・日用品・薬品・燃料の販売店など

③転倒、落下、倒壊したときに危険となる施設

危険物貯蔵施設、ブロック塀、石垣、石灯籠、鳥居、屋外広告物、自動販売機など

④地域防災に役立つ人材

防災士や防災リーダー、消防経験者、医療救護関係者、通訳（外国語、手話）、民生・児童委員など

⑤災害時要援護者のいる世帯

一人暮らしの高齢者、寝たきりの人、身体障害者、妊産婦、外国人など

ステップ2 想定されるまちの被害を理解する。

ここでは、ステップ1において作成した地図をベースに、地震等が発生した場合に想定される被害状況と、どのような災害が発生するか想像し、地域に起こりうる被害を書き込みます。

①地域の被害想定、ハザードマップを活用し、建物被害、崖崩れ危険箇所、延焼火災といった被害を書き込む。

②別途想定される被害、事柄を抽出し、「土地勘」のある者だけが持つ想像力を働かせて、どこで、何が起こりうるか記入する。

ステップ3 地域としての対策を検討する。

ステップ1、2で確認した「まちの防災力」「想定されるまちの被害」を前提に、地震等が発生したときの状況をイメージし、その対策について検討します。

ア　実践的イメージトレーニング（発災直後）

①発生日、時間、季節、天候などの前提条件、次に被害状況（建物被害、火災、人的被害、道路被害、鉄道被害）などを与え、参加者にイメージをふくらまさせる。

②「Aさん宅にて火災発生。多数の地域で火災が発生しているため、消防隊の到着が遅れる。具体的にどのような対応をとるか」などの具体的な質問を投げかける。

イ　実践的イメージトレーニング（発災後数時間～数日経過）

「○○小学校に避難住民が殺到し騒然としています。避難住民の数を把握し、まず、どのように対処すべきか具体的に考えてください。」などの具体的な質問を投げかける。

災害用伝言ダイヤルの使い方

災害用伝言ダイヤルは、災害時に被災地への電話がつながりにくくなることを踏まえ、安否確認のため、NTT東日本等が提供する伝言サービスです。

今や固定電話、携帯電話、PHS、インターネットと、様々なモバイル機器で利用可能となっています。

災害用伝言ダイヤルの種類	提供（運用）会社
災害用伝言ダイヤル（171）	NTT東日本
災害用ブロードバンド伝言板（web171）	NTT東日本
携帯・PHS版災害用伝言板サービス	エヌ・ティ・ティ・ドコモ au ソフトバンクモバイル ウィルコム

災害伝言ダイヤルの利用法

伝言の録音方法　※音声ガイダンスにしたがって利用してください

171 ▶ 1 ▶ 被災地の人の電話番号（市外局番から） ▶ 伝言を吹き込む（30秒以内）

伝言の再生方法　※音声ガイダンスにしたがって利用してください

171 ▶ 2 ▶ 被災地の人の電話番号（市外局番から） ▶ 伝言を聞く

※171は「伝言ダイヤルを忘れてイナイ?」と覚えておきましょう

携帯電話の災害用伝言板

災害時（震度6弱以上の地震など）に携帯電話サービス会社は「災害用伝言板」を開設します。被災地の人の安否情報を伝言板に登録でき、登録された伝言は、同じ会社の携帯電話はもちろん、他社の携帯電話やPHS、パソコンからも見ることができます。

伝言板登録のしかた

各社のトップメニューから「災害用伝言板」を聞く ▶ 「登録」を選択して伝言

伝言板確認のしかた

各社のトップメニューから「災害用伝言板」を聞く ▶ 「確認」を選択して被災地の人の携帯電話番号を入力して伝言を見る

※サービスの詳細は各携帯電話会社にお問い合せください

AEDの使い方

AED(自動体外式除細動器:Automated External Defibrillator)とは、心臓の心室が小刻みに震え、全身に血液を送ることができなくなる心室細動等の致死性の不整脈の状態を、心臓に電気ショックを与えることにより、正常な状態に戻す器械です。

傷病者の発見
肩を叩きながら声をかける。

もしもし
わかりますか。

↓

意識の確認
反応なし。

↓

協力者の要請
近くにいる人を指名して依頼する。

誰か来てください。人が倒れています。
あなたは119番してください。
あなたはAEDを持ってきてください。

↓

気道確保
頭部後屈あご先挙上法。

↓

呼吸の確認
普段どおりの息をしているか、10秒以内で確認する。
呼吸なし。

↓

人工呼吸

↓

胸骨圧迫
人工呼吸が終わったら、すぐに胸骨圧迫(心臓マッサージ)
胸骨圧迫と人工呼吸2回を繰り返し行う。

↓

AED到着
①AEDの電源を入れる。
②電極パッドを傷病者の胸部に心臓を挟み込むように装着する。(電極パッドには、貼り付け位置が絵で表示してある。)
③AEDから発せられる音声指示に従って操作を行う。
④AEDが心電図解析中は、誰も傷病者に触れないように注意を喚起する。
⑤AEDが除細動適応の音声指示を行った場合には、通電ボタンを押す。(この際も、誰も傷病者に触れないように注意を喚起し、安全確認を行う。)
⑥その後もAEDからの音声指示に従って行動する。心肺蘇生とAEDの手順は、救急隊に引き継ぐか、何らかの応答や普段どおりの息が出現するまで続ける。

北 杜 市
自主防災組織活動マニュアル ③

平成20年3月発行
編集　北　杜　市

制作　株式会社　ぎょうせい